

# アルバイトの目的とアルバイトを通して得た肯定感

—中国人女子私費留学生の場合—

黄 美 蘭

## 1. 問題の所在と研究目的

日本学生支援機構（2013）の調査によると、在日私費留学生の7割以上がアルバイトに従事しており、アルバイトの職種として最も多いのは軽労働の「飲食業」で、次いで「営業・販売（コンビニ等）」である。中国人私費留学生の場合、中国と日本は経済的格差が大きく、多くの中国人私費留学生は日本で勉学・生活をしていくためにはアルバイトをしなければならない状況にあると考えられるが、「アルバイト先での体験は決して楽しいことばかりではない」（黄，2010：p60）と言われている。在日中国人留学生を対象にした先行研究では、中国人留学生はアルバイト先の日本人との接触において、被差別感という心理的問題を抱えていることが報告されている（加賀美，1994；岡・深田，1994；葛，1999；2007；山田，2010；黄，2010など）。その一方で、留学生は「アルバイトは日本語を実際に使用できる重要な学習リソース」（小島，2003：p211）だと認識しており、また、アルバイト活動を通して、金銭面以外に社会経験としてもメリットを感じている（譚・渡邊・今野，2009）。つまり、アルバイトは留学生の日本語能力の向上や自己成長において、肯定的な影響を与えていることが考えられるが、これまでに、アルバイトの従事率が高いにもかかわらず、中国人私費留学生に焦点を当て、アルバイトを通して得た肯定的側面について検討した研究はほとんど見られない。

アルバイトの肯定的側面については、日本人大学生を対象とした研究がいくつかある。まず、小平・西田（2004）は日本人大学生50名を対象にアルバイト経験とその意味づけについて半構造化面接を行い、アルバイト経験の意味、アルバイト経験が現在の自分にもたらした影響について検討した。そこでは、日本人大学生はアルバイト経験の意味と自分にもたらした影響として、「人間関係における成長」、「仕事に対する意識の高まり」、「世界の広がり」、「価値観・性格の変化」、「将来・就職への展望」を認識しており、アルバイト経験そのものよりも、その経験を現在の自分に関連づけることがより意味を持つと述べている。次に、西・柳澤（2010）は、日本人大学生148名を対象に、前述の小平・西田（2004）を参考に、アルバイト活動を通じた学習内容について質問紙調査を行った。その結果、日本人大学生がアルバイト活動を通して習得できる学習内容として、「職務遂行スキル・態度の獲得」、「社会的価値観の拡張」、「学業に対する肯定的態度の獲得」、「仕事の適性への理解」の4因子が得られた。最後に、後藤・金井（2007）は、日本人大学生12名を対象に、アルバイト就業体験が個人のキャリアに及ぼす影響について半構造化面接を行った。その結果、アルバイト経験を通して、リアリティ・ショック<sup>1</sup>経験を持つようになったと感じた学生ほど、仕事経験による知識やスキルの獲得、経験による気づき、求められる能力・スキル・知識の理

解、今後の課題の発見に繋がることが明らかになった。このように、日本人大学生を対象に行った研究では、アルバイト活動を通して学習できる内容やその学習を促す要因について明らかにされており、中国人私費留学生についても詳細な検討を行う必要があると思われる。

また、アルバイトの動機づけと職務満足感についての研究に、加藤・伊藤・石橋・小石（2002）と譚・渡邊・今野（2009）がある。自己決定理論に基づくアルバイトの動機づけのタイプと職務満足感との関連について検討した、加藤・伊藤・石橋・小石（2002）は、アルバイトに従事している日本人大学生を対象に、アルバイト場面における仕事に対する動機づけが、職務に関する達成、承認、責任、昇進という職務内容だけでなく、対人関係とも関連していることを明らかにしている。そこでは、自己決定性が高いとされる内発的動機づけ<sup>ii</sup>と統一的動機づけ<sup>iii</sup>タイプであるほど職務満足感が高いと述べられている。同様の理論的枠組みを用いて、在日中国人留学生・就学生を対象に、動機づけの自己決定性が仕事満足感に及ぼす影響について検討した研究に譚・渡邊・今野（2009）がある。そこでは、中国人留学生・就学生のアルバイトの動機づけと仕事満足感について質問紙調査を行い、「アルバイトの内容が面白いから」、「一生懸命仕事をするのが楽しいから」など、内発的動機づけを高く持ってアルバイトに従事すると、アルバイト活動において満足感が高いことが示されている。つまり、自己決定の程度が高い動機づけを持つほど肯定的な結果と関連（Ryan, Deci&Grolnick, 1995）しており、アルバイトに従事する動機づけ、すなわち、アルバイトの目的の違いによってアルバイトを通して得たと認識する肯定感が異なると推測できる。譚・渡邊・今野（2009）の研究では、中国人留学生・就学生に焦点を当てアルバイトの動機づけと仕事満足感について調査を行っているが、アルバイトを通して中国人留学生・就学生が実際に認知している肯定的側面については検討が行われていない。

さらに、アルバイトについての認識に関しては男女の差異があると指摘されている。たとえば、深谷・武内・明石・木下・畠山（1992）は日本人高校生を対象にアルバイトの体験について調査を行い、アルバイトを通して身につけたと認識するものに性別による違いが見られるとしている。そこでは、女子は男子に比べてアルバイトを通して忍耐力、礼儀、協調性、責任感などが身につくと感じている比率が高いと述べられている。また、宮本（2009）においても、アルバイトの経験が進路志望に及ぼす影響について男女の差が見られるとしており、男子高校生では実際のアルバイトの中身（時間、充実感が得られる活動をしているかどうか）が影響を与えているのに対して、女子ではそもそも「進路のため」という目的意識が高いかどうかの影響していると述べている。つまり、アルバイトの経験には性差があると考えられ、中国人留学生においても、男女を分けて検討する必要があると思われるため、本研究ではまず、中国人女子私費留学生に焦点を当てることにする。

これまでに述べたように、多くの中国人私費留学生がアルバイトに従事しているものの、中国人私費留学生がアルバイトの経験をどのように捉えているのかについての研究は行われていない。また、アルバイトの目的の違いによってアルバイトを通して得たと認識する肯定感が異なると推測できるが、今まで両者の間の関連については検討が行われていない。以上を踏まえ、本研究では、まず、中国人女子私費留学生を対象に、アルバイトに従事する目的（以下、アルバイトの目的）とアルバイトを通して得た肯定感（以下、アルバイトの肯定感）を明らかにし、両者の間にどのような関連があるのかを検討することを目的とする。

## 2. 研究方法及び調査手続き

### 2.1 研究課題

以上の目的により、以下の3点を研究課題とした。

RQ1：中国人女子私費留學生のアルバイトの目的はどのようなものか。

RQ2：中国人女子私費留學生のアルバイトの肯定感はどのようなものか。

RQ3：中国人女子私費留學生のアルバイトの目的とアルバイトの肯定感にはどのような関連が見られるのか。

### 2.2 調査手続き及び対象者

2014年4月から5月にかけて、中国人女子私費留學生6名を対象に、1人につき90分～120分程度の半構造化インタビューを中国語で実施した。対象者の年齢は23歳～29歳（平均年齢：25.5歳）で、所属は学部研究生2人、大学院博士前期課程3人、大学院博士後期課程1人で、滞日期間は1年～6年（平均滞日期間：2.8年）である。また、調査時点で全員がアルバイトに従事しており、ほとんど（6人中5人）のアルバイト先が飲食店やコンビニ、スーパーなどであった。対象者の属性を表1に示す。

表1. 対象者の属性

対象者	性別	年齢	所属	滞日期間	現在のアルバイトの内容
A	女	29	大学院 博士後期課程	4年	コンビニ（レジ）
B	女	24	大学院 博士前期課程	1年半	飲食店（ホール） 翻訳会社（雑務） 学内TA 学内個人チューター
C	女	29	大学院 博士前期課程	6年	中国語講師 学会事務
D	女	23	学部 研究生	3年	スーパー（レジ）
E	女	24	大学院 博士前期課程	1年半	飲食店（ホール） 翻訳会社（雑務） 学内個人チューター
F	女	24	学部 研究生	1年	飲食店（ホール） 中華料理店（ホール）

### 2.3 分析方法

中国人女子私費留學生のアルバイトの目的とアルバイトの肯定感の分類・整理に当たっては、KJ法を参考にした。KJ法はインタビューなどから得られたデータを既成概念にとらわれることなく分類し、検討するのに有効な方法である（川喜田，1967）。インタビュー内容を文字化（内容についてはバックトランスレーションを行った）し、アルバイトの目的とアルバイトの肯定感について語った部分を取り出し、カード化した。また、意味が類似するカードをグループ<sup>iv</sup>ごとにまとめ、分類・整理し、カテゴリー名を生成した。意味の類似するものが見つからない場合は、無理にグループ化することを避けた。

### 3. 結果と考察

#### 3.1 中国人女子私費留学生のアルバイトの目的 (RQ1)

中国人女子私費留学生に「あなたはなぜアルバイトを始めようと思いましたか」と問いかけ、アルバイトに従事した理由についてKJ法をもとに分類した。その結果、中カテゴリーとして、「自己満足」4例の1つ、小カテゴリーとして、〈金銭獲得〉9例、〈消極性〉2例の2つが得られた(図1)。

まず、中カテゴリー「自己満足」には〈心理的満足〉意味を表す小カテゴリーと単独カードがある。〈心理的満足〉には、「アルバイトをしないと罪悪感を感じる」、「アルバイトをすると達成感が得られる」などの言及が見られ、単独カードには、「アルバイトをしないと日本社会との接点がない」の言及があり、アルバイトに従事することによって自己の満足感を得ようとする内容であった。次に、〈金銭獲得〉には「生活費のため」、「学費のため」などの言及があり、日本での生活のためにアルバイトに従事しているという内容であった。最後に、〈消極性〉には「(たまたま)先輩の紹介があったから」、「特に明確な目的はない」などの言及が見られ、明確な目的がなくアルバイトに従事したという内容であった。この中で、〈金銭獲得〉は外部から報酬を得ることが目的であるため「外発的目的」、「自己満足」は個人の内面的な満足を得ることが目的であるため「内発的目的」と考えられる。

このように、中国人女子私費留学生は〈金銭獲得〉、つまり、「外発的目的」を持ってアルバイトに従事することが最も多く(15例中9例)、アルバイトは日本での生活を維持するための手段であると推測できる。これは、在日私費留学生がアルバイトに従事している理由として「日本での生活を維持するために必要だから」が最も多い(69.2%)ことと(日本学生支援機構, 2013)一致する。また、中国人女子私費留学生は「自己満足」、つまり、「内発的目的」を持ってアルバイトに従事することや、特に明確な目的を持たずにアルバイトに従事する場合もあり、中国人女子私費留学生はアルバイトを通して「金銭面以外にも様々なメリットを感じている」(譚・渡邊・今野, 2009: p121)様子が窺える。

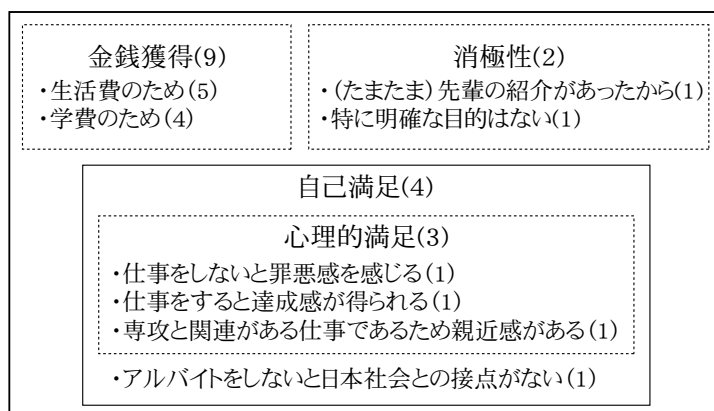


図1. アルバイトの目的

### 3.2 中国人女子私費留学生のアルバイトの肯定感 (RQ2)

中国人女子私費留学生に「あなたはアルバイトを通して何を得たと思いますか」と問いかけ、アルバイトを通して得た肯定感について、KJ法をもとに分類した。その結果、大カテゴリーとして、『自己認識』70例、『日本社会・日本人への認識』51例の2つ、中カテゴリーとして「生活手段」13例の1つが得られた(図2)。

まず、『自己認識』には、中カテゴリーの「職務スキル・態度」31例、「自己成長」30例、「キャリア意識」9例がある。その中で、「職務スキル・態度」には、小カテゴリーの〈職務スキルの獲得〉と〈職務態度の獲得〉がある。つまり、中国人女子私費留学生はアルバイトを通して、利用客に対する細かい配慮や挨拶の重要性など、仕事に必要なスキルと仕事先のルール遵守などの職務態度について学んだと考えられる。日本と中国は接客習慣が異なり、また、本研究においてほとんどの学生が来日する前に働いた経験がなかったため(6人中4人、66.7%)、中国人女子私費留学生にとって日本のアルバイト先で必要とされる職務スキルと態度についての学びが多かったと推測できる。「自己成長」には、小カテゴリーの〈内面の変化〉と〈新しい価値観の獲得〉がある。たとえば、「私は少し内向的ですが、仕事を通して少し良くなりました。仕事は私を成長させました」など、中国人女子私費留学生はアルバイトを通して、性格がポジティブに変化したと、自分自身の内面の変化に気づいている様子が窺える。さらに、「アルバイト先

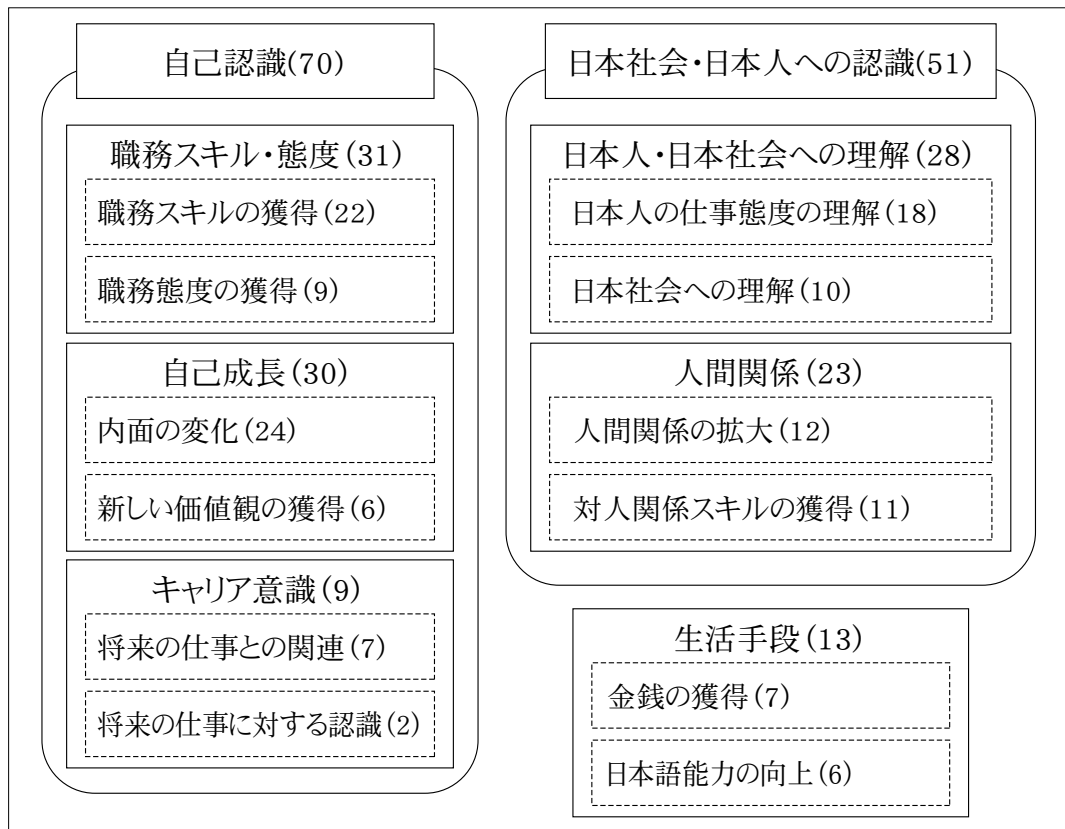


図2. アルバイトの肯定感

ではいろいろな人からそれぞれ異なることを学ぶことができます」など、アルバイト先の多様性に気づいたり、「(アルバイトを通して)日本人の思いやりについて学びました」など、日本人の価値観について学んだり、今まではなかった価値観を獲得する変化があると考えられる。つまり、中国人女子私費留学生はアルバイト先の日本人と接触することによって獲得した肯定的な価値観を自分の中に取り入れていると思われる。「キャリア意識」には小カテゴリーの〈将来の仕事との関連〉と〈将来の仕事に対する意識〉がある。「アルバイトは将来の仕事に役に立つかも知れない」など、現在のアルバイトと将来自分が従事しようとする仕事を関連づけて考えたり、「アルバイトで将来の生計を立てることは絶対ないと思います」など、アルバイトを経験することによって、将来の仕事について明確な認識を持つようになったと考えられる。

次に、『日本社会・日本人への認識』には中カテゴリーの「日本人・日本社会への理解」28例と、「人間関係」23例がある。その中で、「日本人・日本社会への理解」には、小カテゴリーの〈日本人の仕事態度の理解〉と〈日本社会への理解〉があり、アルバイトを通して日本人のまじめな仕事態度について理解したり、学外の日本社会との接触を通して日本社会についてより具体的な理解が得られたりした様子が窺える。「アルバイト先の日本人は仕事熱心で、礼儀正しいです」や「中国の社会秩序と日本は違うし、中国社会はとても適当です。日本社会はとても厳密です」などの語りから分かるように、中国人女子私費留学生はアルバイトを通して、日本人の仕事に対するまじめな態度について学び、日本社会についての理解を深めていると推測できる。「人間関係」には小カテゴリーの〈人間関係の拡大〉と〈対人関係スキルの獲得〉があり、アルバイトを通して学外の人との人間関係が構築され、また人と付き合う際のスキルを学んだと考えられる。「アルバイトをすることによって、日本社会に入り込むことができるような気がします。接触が大学の人だけに限られていると、日本社会と隔離してしまうような気がします」など、中国人女子私費留学生のネットワークが学外に広がったことが分かる。さらに、「日本人と長く円滑につき合うためには、時間を守ることと、人に迷惑をかけないこと、それと適宜な距離を保ち、自分の言動に注意する。などが大事です」との語りから分かるように、中国人女子私費留学生はアルバイトを通して、中国とは異なる対人関係スキルを認識していると考えられる。

最後に、中カテゴリーの「生活手段」には、小カテゴリーの〈金銭の獲得〉と〈日本語能力の向上〉がある。中国人女子私費留学生がアルバイトを通して、生活費や学費などを得たことと、日本語能力が伸びたことを実感している様子が窺える。

このように、中国人女子私費留学生が認識しているアルバイトの肯定感として『自己認識』と『日本社会・日本人への認識』が多いことがわかる。『自己認識』においては、特に、「職務スキル・態度」という仕事内容面、「自己成長」という自分自身の内面の変化が多く、『日本社会・日本人への認識』においては、「日本人・日本社会への理解」、「人間関係」という人間関係構築面のものが多かった。中国人女子私費留学生はアルバイトを通して日本社会との接点を持つことによって、新たな人間関係を構築し、日本人や日本社会に対する理解が深まるなど、大学キャンパス以外のネットワークが広がったと考えられる。また、アルバイトを通して中国社会や中国人の仕事に対する態度との相違点に気づき、日本人の仕事に対する態度を肯定的に捉え、自分の中に取り入れている様子が窺える。一方、「生活手段」という道具的な肯定感は少なく、「キャリア意識」における肯定感も少なかった。「アルバイトだけでは、生活がギリギリです。…今は奨学金ももらっているんで、それが生活の大部分を支えています」など、中国人女子私費留学生がアルバイトを通して得た収入は生活費や学費などで費やされることが多いため、金銭面での肯定感が少ないと推測できる。また、「アルバイト先では、決まった言葉しか話しません」との語りから分かるように、

### アルバイトの目的とアルバイトを通して得た肯定感

アルバイト先での日本語は決まった言葉が多く、そこで学んだ日本語は大学キャンパス内での日本人学生との交流や日常生活で話す日本語にはあまり役に立たないと認識している様子が窺える。さらに、「キャリア意識」における肯定感については、「今のアルバイトを将来の仕事として考えたことはないです」など、現在のアルバイトを将来の正規の職業とは考えていないため、将来のキャリアについての肯定感が少ないと考えられる。

### 3.3 アルバイトの目的とアルバイトの肯定感の関連 (RQ3)

中国人女子私費留学生のアルバイトの目的とアルバイトの肯定感との関連については、次の4つの傾向が見られた(図3)。1つ目は、「自己満足」の目的を持ってアルバイトに従事する場合、「日本人・日本社会への理解」、「人間関係」における肯定感が多く、一方、「職務スキル・態度」における肯定感が少なかった。「自己満足」などの内発的的目的を持っている人は、「アルバイトをしないと日本社会との接点が得られないから」など、日本社会との接点を求めてアルバイトに従事しており、「日本社会はとても効率的に動いていて、日本人は仕事に熱心で、常に完璧を求めます」や「アルバイトをすることによって学外のネットワークを持つようになりました」など、日本人・日本社会への理解が深まり、日本人との人間関係構築面での肯定感が得られたと考えられる。自己決定の程度の高い内発的的目的を持つ場合、日本の社会や人に対する肯定感が多いことから、中国人女子私費留学生はアルバイトを通して、日本社会・日本人に対して理解を深めたことや、日本人との人間関係が広がったことに対して最も肯定的であると推測できる。また、アルバイトの内容については特に何も求めていないため、仕事そのものに対するスキルや態度についての肯定感はあまり感じないと考えられる。2つ目は、〈金銭獲得〉などの外発的的目的を持っており、アルバイト先でいじめなどの否定的体験をした場合、「自己成長」における肯定感が少ない傾向が見られた。経

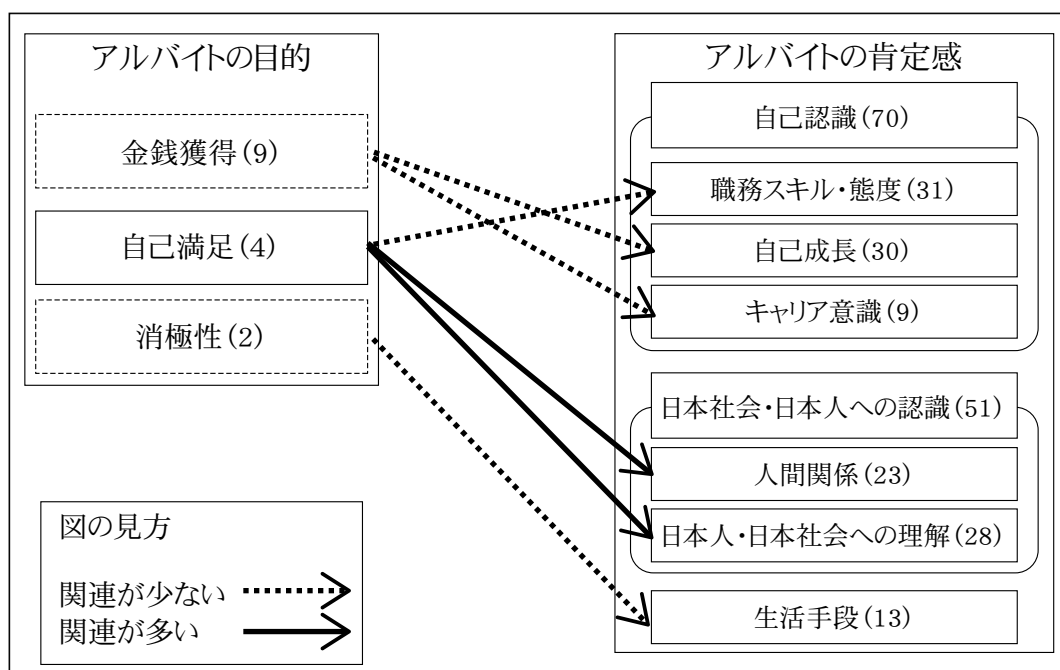


図3. アルバイトの目的とアルバイトの肯定感との関連

済的理由でアルバイトに従事したものの、周りの人から不当な扱いをされ、「今の仕事は完全にお金のためだけです。…（アルバイト先では）仕事をするとき、あまり交流の機会がないし、仲がいい人がいないので」など、アルバイト先の人間関係に不満を持つことによって、アルバイトは生活を維持するためのものだとしか考えておらず、日本人の友人もいなく日本人への理解が不足しているため、自分への気づきが得られなかったと推測できる。3つ目は、〈金銭獲得〉という外発的目的を持っており、大学院博士後期課程に在籍している場合、「キャリア意識」における肯定感が少ない傾向が見られた。経済的理由によりアルバイトに従事したが、「私の専攻は日本で就職が難しいので…将来は中国で就職します」など、卒業後の仕事について明確なビジョンを持っているため、アルバイトとキャリアの関連性をあまり感じないと思われる。4つ目は、〈消極性〉という目的でアルバイトに従事する場合、「生活手段」における肯定感が少なかった。「生活費や学費は家からもらっているので、アルバイトで得たお金は自分で使えばいいです」などの語りから分かるように、生活費や学費の心配がなく、日本語がある程度できる人はアルバイトに対して明確な目的を持たず、アルバイトで得た収入は小遣い程度としか考えないため、生活手段面で得る肯定感が少ないと推測できる。

#### 4. 結果のまとめと総合的考察

本研究において、研究課題1では中国人女子私費留学生在がアルバイトに従事する目的について検討した。その結果、中国人女子私費留学生在は日本での生活費や学費など、〈金銭獲得〉の目的でアルバイトに従事することが最も多く、それ以外に、「自己満足」や〈消極性〉など、様々な目的を持ってアルバイトに従事していることが示された。また、「（アルバイトを始めた理由は）お金のためです。…大学の授業は脳力仕事（頭を使う）で、アルバイトは体力仕事です。…頭が疲れていても、体力仕事はできます。…アルバイトはある意味気分転換のためのものです」など、アルバイトを始めた最初の目的は金銭のためであったが、アルバイトを続けるうちに、アルバイトを単に生活手段として考えるだけでなく、気分転換のためであると捉えている傾向が見られた。つまり、最初のアルバイトの目的がアルバイトを継続する中で変化するなど、アルバイトの目的が単一ではないことが推測できる。本研究では、アルバイトの目的の優先順位については調査を行っていないため、今後更なる検討が必要である。

研究課題2では、中国人女子私費留学生在がアルバイトを通して得たと認識する肯定感について検討を行った。その結果、「職務スキル・態度」という仕事内容面、「自己成長」という自分自身の内面の変化、「日本人・日本社会への理解」、「人間関係」という人間関係構築面のものが多く、「生活手段」という道具的なものと「キャリア意識」という将来の仕事と関連するものが少なかった。つまり、中国人女子私費留学生在は〈金銭獲得〉という外発的目的を持ってアルバイトに従事する場合が最も多いが、実際にアルバイトを通して得た肯定感としては、仕事内容、自己の内面の変化、日本人との人間関係に関する内容が多いことが分かった。本研究における中国人女子私費留学生在にとって、アルバイトは学費や生活費を用意するための手段だけでなく、日本の労働観についての学びや自分自身の振り返り、及び日本人との人間関係を構築する上で、役に立つものだと考えられる。また、「（アルバイトを通して）金銭面での負担は結構少なくなりました。…（アルバイトを通して得たものとして一番多いのは）社会とのつながりができたことだと思います。学校だけだと日本社会とのつながりを持ったとは言えないと思います」などの語りから分かるように、中国人女子私費留学生在はアルバイトを通して、本来の目的を達成した上で、それ以外にも様々な内容の肯定感を得たと考えられる。



## アルバイトの目的とアルバイトを通して得た肯定感

研究課題3では、アルバイトの目的とアルバイトの肯定感との関連について検討した。その結果、内発的意欲を持ってアルバイトに従事する場合、日本人と日本社会への理解や日本人との人間関係面での肯定感が多くみられた。自己決定理論 (Deci&Ryan, 2000) によると、内発的意欲は心理的幸福感や満足感などと正の関連を持つとされている。本研究において、内発的意欲を持っている場合、アルバイトを通して得た日本人への理解や日本人との人間関係構築面での肯定感が多いことから、中国人女子私費留学生はアルバイトを通して得た日本人との人間関係構築面での肯定感に満足している可能性が示唆された。一方、外発的意欲を持っている場合、個人の属性やアルバイト先での経験によって、得られる肯定感がそれぞれ異なる傾向が見られた。特に、アルバイト先でいじめなどの不当な扱いをされた場合「自己成長」、つまり、自分自身の内面の変化に気づいたり、日本人の価値観について学んだりするという肯定感が少なかった。たとえば、「私はアルバイトをしょっちゅう変えているので、アルバイト先で友人はいません。…私はこれまでたくさんのアルバイトをしてきましたが、少し仲がいいおばあさんがいるくらいです。それ以外にはないです」などの語りから分かるように、アルバイト先でいじめられた経験は中国人女子私費留学生が日本人と友人関係を構築することを難しくすると思われる。日本人に対しては表面的な理解しかできなかったため、日本人と自分自身を比較することができず、そのことによって、自分自身への気づきや日本人の価値観についての学びも得られなかったと考えられる。

本研究では、中国人女子私費留学生に焦点を当て、アルバイトに従事する目的とアルバイトを通して得た肯定感について検討を行った。中国では大学を卒業するまでに、接客業などのアルバイトを経験することはごく稀で、一部の学生が家庭教師などのアルバイトを経験する程度である。このような中、中国人女子私費留学生は日本でのアルバイトを通して様々なことについて肯定的に捉えている様子が窺えた。中国と日本の文化や接客習慣が違うことから、中国人女子私費留学生はアルバイトを通して得た仕事に必要な「職務スキル・態度」と「日本人・日本社会への理解」を肯定的に捉えており、また、アルバイトを通して中国とは異なる日本社会における「人間関係」についても学び、今後の生活の中で活用するのではないと思われる。さらに、アルバイトを通して、「キャリア意識」をもち、将来のキャリアとの関連について意識するようになったことから、アルバイトが中国人女子私費留学生に及ぼす影響が本来のアルバイトの目的以上に大きかったと考えられる。このように、本研究は中国人女子私費留学生を対象に、アルバイトを通して得た肯定的側面について詳細に検討を行った点において、意義があると思われる。

## 5. 今後の課題

本研究は対象者の人数や属性に限界があるため、今後は量的調査を行い、アルバイトを通して得られる肯定感と男女の差異についてより具体的に検討したい。また、アルバイトを通して得た肯定感と属性、仕事満足感やアルバイトが今後のキャリアに及ぼす影響などについての関連も明らかにしたい。

### 参考文献

- 岡益己・深田博己 (1994) 「中国人留学生と就学生の意識」『岡山大学経済学会雑誌』26(1), 1-28.
- 加賀美常美代 (1994) 「異文化接触における不満の決定因—中国人就学生の場合—」『異文化間教育』(8), 117-126.
- 葛文綺 (1999) 「留学生の異文化適応に関する研究—来日目的、対日イメージと適応度との関連を中心に—」『名古屋大学教育学部紀要』46, 287-297.

- 葛文綺 (2007) 『中国人留学生・研修生の異文化適応』 溪水社.
- 加藤司・伊藤崇達・石橋寛子・小石寛文 (2002) 「自己決定理論に基づく動機づけのタイプと職務満足感との関連性—アルバイト学生を対象に—」 『神戸大学発達科学部人間科学研究センター』 9 (2), 1-9.
- 川喜田二郎 (1967) 『発想法 創造性開発のために』 中公新書.
- 黄美蘭 (2010) 「日本語学校に通う中国人学生の被差別感と原因帰属との関連—アルバイト先の事例を中心に—」 『お茶の水女子大学人間文化創成科学論叢』 13, 59-67.
- 小島祐子 (2003) 「学習リソースとしてのアルバイト—就学生を対象として—」 『桜美林国際学論集 Magis』 (8), 199-213.
- 小平英志・西田裕紀子 (2004) 「大学生のアルバイト経験とその意味づけ」 『日本青年心理学会大会発表論集』 12, 30-31.
- 後藤智子・金井篤子 (2007) 「大学生のアルバイト就業体験が個人のキャリアに及ぼす影響」 『産業・組織心理学会大会発表論集』 23, 167-170.
- 譚紅艷・渡邊勉・今野裕之 (2009) 「動機づけの自己決定性が在日中国人留学生・就学生の仕事満足感に及ぼす影響」 『目白大学 心理学研究』 (5), 117-123.
- 西宏樹・柳澤さおり (2010) 「大学生のアルバイト活動を通じた学習—アルバイトの目標と活動の意識化の効果—」 『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』 (42), 285-292.
- 日本学生支援機構 (2013) 「平成25年度外国人留学生在籍状況調査結果」 [http://www.jasso.go.jp/statistics/intl\\_student/data11.html](http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data11.html) (最終閲覧日: 2014年 8月 1日)
- 深谷昌志・武内清・明石要一・木下勉・畠山滋 (1992) 『モノグラフ・高校生 vol.34 高校生たちのアルバイト体験』 福武書店教育研究所.
- 宮本幸子 (2009) 「アルバイトが進路志望に与える影響—性別の違いに着目して—」 『東京大学教育学部比較教育社会学コース 研究所報 (第三部 学校外の活動と社会観)』 (49), 167-176.
- 山田陽子 (2010) 『中国人就学生と中国帰国子女—中国から渡日した子どもたちの生活実態と言語—』 風媒社.
- Deci, E.L.&Ryan, R.M. (2000) Self-determination theory and the facilitation of The If Intrinsic Motivation, Social Development, and Well-being. *American Psychologist*, 55, 68-78.
- Ryan, R.M., Deci, E.L.&Grolnick, W.S. (1995) Autonomy, relatedness, and the self: Their relation to development and psychopathology. In D.Cicchetti & D.J.Cohen(Eds.), *Developmental psychopathology: Theory and methods*, 618-655.
- Schein, E.H.(1978) *Career Dynamics: Matching Individual and Orgnizatioanl Needs*, Addison-Wesley. (二村敏子・三善勝代 (1999) 『キャリア・ダイナミクス』 白桃書房.)

#### 註

- i リアリティ・ショックとは、自分の期待や夢と、組織での仕事や所属の実際とのギャップに初めて出会うことから生じるショックである (Schein, 1978)。
- ii 内発的動機づけは、外的な要求や罰に基づかない自己決定的な動機づけである。
- iii 統合的動機づけは、行動を起こす際に自分の日常生活や価値づけられた目標との適合度が高いこと、また、行動が統合されていることを意味する。
- iv 文章では、グループ化して得られた大カテゴリーを『』、中カテゴリーを「」、小カテゴリーを〈〉と表記する。
- v インタビューの内容を分かりやすくするため、インタビュー前後の流れに従い、( ) の内容は筆者が補った。